

大林守・商学部教授が イタリア訪問

「シエナの元気の源は 伝統ある『町内会』の連帯」 全国紙のコラムに登場



大林教授が登場した伊紙
「La Nazione」

大林守商学部教授(計
量経済学、国際交流セン
ター長)が、今夏、イタ
リア中部の都市シエナを
訪問。全国紙「La Nazione」
のインタビューを受
け、9月4日の同紙コ
ラム「BUONGIORNO SI
ENA」に登場、紙面を飾
った。

大林教授は、
シエナの人口は6
万弱、にもかかわらず、
数百年にわたって都市として
発展を維持してき
たのは、コントラ
ーダと呼ばれる街
区町内会のコミュ
ニティーを基盤と
した社会関係資本
(信頼、連帯)の
存在が挙げられ
る。その力は、中小企業
が盛ん。17のコントラ
ーダがあり、コントラ
ーダで教会、集会所や博
物館などを持っている。
シエナは観光業や工芸



コントラダーではたくさんのイベント
が行われ人々の交流の場に=シエナで

ゆかりの大漁旗掲げ 励ましの太鼓を披露

専大松戸中・ 高校和太鼓部 被災地・大槌町を訪問



大槌の仮設住宅前で力強い太鼓を披露

専修大学松戸中学校・
高等学校(榎谷有三校
長)和太鼓部は東日本大
震災で壊滅的な被害を受
けた岩手県大槌町を訪
ね、和太鼓を披露、一日
も早い復興を祈念した。
創部20年の同部が演奏
の際、掲げるのは大槌
の「第十金祐丸」の大漁
旗。4年前、岩手県の総
合マリンレジャー団体
「海遊学院」から提供さ
れた。3月11日の大震災
の報に「演奏会で大槌の
人々を激励しよう」と企
画した。

9月28日夜、バスで出
発した一行34人は、翌29
日、大槌町災害ボランティア
センターで清掃、草
刈り活動を行った後、岩
手県立大槌高校へ。集ま

学生部「夏期石巻ボランティア活動」報告会

「まだできることはある」 「災害に備え心構え大切」

学生部主催「夏期石巻
ボランティア活動」(A
日程:8月6~9日、B
日程:9~12日)本紙4
92号(既報)の参加者に
よる活動報告会が9月24
日、神田キャンパスで開
催された。学生、教職員
ら30人が出席し、活動内
容や現地を感じたことな
どを発表した。

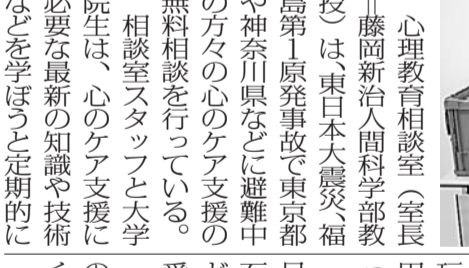
部長が「この活動は長く
も眠れない日があっ
た」「今の時期、震災に
ついて話す機会が減って
いるように感じる。今後
も忘れずに話し合うこと
が必要だ」と思う。「今後
はサークルのパフォーマ
ンスを披露するなど、笑
顔を取り戻す活動も必要
だ」「まだできることは
たくさんあると感じた。
これからも参加してい

「まだできることはある」
「災害に備え心構え大切」
「まだできることはある」
「災害に備え心構え大切」
「まだできることはある」
「災害に備え心構え大切」



終了後は、学生生活課
が立ち上げるボランティア
ア団体「SKV・SIV
」(専修生ボランティア
ア)の活動が紹介され、
参加者を募った。

「秋期日本語・日本事情
プログラム」および日本
事情プログラムおよび日本
事情プログラム(BCCL
プログラム)が9月22
日からスタートした。



心理教育相談室(室長
藤岡新治人間科学部教
授)は、東日本大震災、福
島第1原発事故で東京都
や神奈川県などに避難中
の方々の心のケア支援の
無料相談を行っている。
相談室スタッフと大学
院生は、心のケア支援に
必要な最新の知識や技術
などを学ぼうと定期的に
同相談室は今後も、清



24人の参加者らが記念撮影

「秋期日本語・日本事情
プログラム」および日本
事情プログラム(BCCL
プログラム)が9月22
日からスタートした。
日本の文化・歴史を学
ぶ。参加者18人と特別聴
講生、一般学生あわせて
6人が日本語・日本事情
プログラムを受講。
12月17日までの12週
間、日本語学習のほか大
手企業見学や箱根研修、
小学校訪問、茶道、書道、
ホームビジットなども体
験する。

「秋期日本語・日本事情
プログラム」および日本
事情プログラム(BCCL
プログラム)が9月22
日からスタートした。

「秋期日本語・日本事情
プログラム」および日本
事情プログラム(BCCL
プログラム)が9月22
日からスタートした。

「秋期日本語・日本事情
プログラム」および日本
事情プログラム(BCCL
プログラム)が9月22
日からスタートした。

「秋期日本語・日本事情
プログラム」および日本
事情プログラム(BCCL
プログラム)が9月22
日からスタートした。

「秋期日本語・日本事情
プログラム」および日本
事情プログラム(BCCL
プログラム)が9月22
日からスタートした。

「秋期日本語・日本事情
プログラム」および日本
事情プログラム(BCCL
プログラム)が9月22
日からスタートした。

「秋期日本語・日本事情
プログラム」および日本
事情プログラム(BCCL
プログラム)が9月22
日からスタートした。

被災地への支援物資続々 衣類、玩具、寝具… 心理教育相談室

研修を行い、その一環と
して被災地への支援物資
を送る活動を続けている。
物資支援の輪は、相談
室を利用する学外の地域
住民にも広がり、生田キ
ャンパス11号館の相談室
には、「被災地の人々に
届けてほしい」と衣類や
玩具、寝具といった生活
用品など支援物資が集ま
っている。写真。

●新連載● 外国語の「ススミ」 LL研究室

英語 "How to die is how to live"

小山 太一 商学部准教授

時は秋。もう少したてば、色づいた木
々が最後のお祭りのように野山を染め、
そして落葉から冬枯れへと季節は移って
いきます。それだからというわけでもな
いですが、イギリスの著名小説家であ
るイアン・マキューアン(『贖罪』新潮
文庫、『ソーラー』新潮社ほか)が今年
の初めに人間の死の方について行った提
言を思い出しました。大震災このかた、
人の死について考える機会が多い年でも
ありましたし、ひとつその話をしましょ
う。
イギリスの高級紙「デイリー・テレグ
ラフ」に、今年の初め、こんな題名の記
事が載りました。"Ian McEwan: help
terminally ill to die." LL教室の
コラムですから、少しだけ語学的解説を



加えます。terminally illの前には本
来なら定冠詞のtheがつくはずですが、
新聞の見出しではしばしばこのtheは省
略されます。「the+形容詞」って、英語
でどんな意味になるんでしたっけ?
「~な人々、~なもの」ですね。
the terminally illとは、もはや治療
の見込みがない、死が確実な病気をわず
らっている人々のことです。ですから、
help the terminally ill to dieとは、
「終末期患者が死ぬための手助けを」と
いう意味になります。マキューアンはそ
の法整備を訴えているのです。
何だか危ない話に思えるかもしれませ
ん。治らない病気にかかったら殺されち
やうの? そんなのヤダ、という方も、
みなさんの中にいるのではないでしょ
うか?
※続きはLL研究室ホームページをご覧
ください。